

第4回全国ピアスタッフの集い報告書



報告書

日本ピアスタッフ協会

目次

全国ピアスタッフの集い実施の背景	P 1
仙台開催に至った経緯	P 1
過去の開催状況一覧	P 2
全国ピアスタッフの集い、及び仙台開催の意義	P 2
第4回全国ピアスタッフの集いの報告	
写真いろいろ	P 3－4
第4回全国ピアスタッフの集いプログラム集	P 5－8
全体会報告	P 9
分科会報告	P 10－13
参加者の声	P 14－19
アンケート本文	P 19－21
第4回全国ピアスタッフの集いのまとめ	
実行委員による振り返り	P 22－24
まとめ	P 24
開催にあたってのご寄附へのお礼とご報告	P 25
第4回全国ピアスタッフの集い 実行委員長謝辞	P 25
編集後記	P 25
お知らせ	P 26

全国ピアスタッフの集い実施の背景

「ピアスタッフってほかにいるんですか？」これは、当時私がピアスタッフの方々から投げかけられた質問です。一人、二人ではありませんでした。「全国には今、私が回りきれないほどのピアスタッフの方が活躍しています」とお伝えすると「そうなんですか！？お会いしてお話したいです！」と口を揃えていわれました。

当時、私はピアスタッフに関する調査を始めた頃で、東にピアスタッフがいると聞けば行き、西にいると聞けば行き、北海道から沖縄まで約 50 名ほどのピアスタッフにインタビューをさせていただいていました。ピアスタッフは一人職場（法人や事業所に一人だけ雇用されている）がほとんどで、やりがいとともに多くの葛藤も語っていただきました。

そんな思いを受け、ふと「私が出かけていくのではなく、皆さんに集まっていただいたらいいのではないか」と思うようになり、これまで私がインタビューさせていただいたピアスタッフの皆様にお声をかけて始めたのが「第一回全国ピアスタッフの集い」でした。30 名ほどを想定していたのですが、口コミであつという間に広がり、気づけば 80 名以上の申し込みが届いていました。第一回の熱気のなかで、これからのピアスタッフの道を拓いていくのはここに集まる皆さんだという思いを強くいたしました。そして、そのためにはピアスタッフ同士が出会い、語り合い、刺激しあい、分かち合うことのできる場を必要としていることを感じました。加えて、それをピアスタッフだけの集まりにするのではなく、「一緒に働く専門職者や行政の人たちにも私たちの声を聞いてもらいたいし、一緒に語りたい」との声には目から鱗でした。

科研費（研究補助）を受けて 3 年間の開催を約束したものの、想定外の人数が集まったことで予算オーバー。第 2 回からは実行委員会を中心に企画を進め、開催することとなり、毎年工夫を重ねながら継続しています。

この間にピアスタッフをめぐる状況も激変したと感じています。しかし、どのような変化があっても、常にピアスタッフ自身の経験からくる知を集積し、そこから思考し創造し、未来を拓いていく、そこに立ち返る場として「全国ピアスタッフの集い」の存在意義があると思っています。

（相川 章子）

仙台開催に至った経緯

第 1 回全国ピアスタッフの集いは、代々木オリンピックセンターで口コミのみで約 80 名ほど集まりました。この時の参加者は集いが有意義なもので、横の繋がりの大切さに改めて気づきました。これがきっかけになり、実行委員会を立ち上げ、第 2 回、第 3 回と聖学院大学で集いを開催しました。しかし、この 2 回はほんの一部の実行委員に負担がかかり過ぎていた為、実行委員全員がそれぞれ出来る範囲で力を出し合い開催できなくてはならないという思いから地方開催の案が出ました。そして初めての地方開催の地として、仙台で行う事が実行委員会で決定しました。

仙台のピアスタッフが、実行委員長を務め、現地事務局も立ち上げました。現地事務局は、ピアスタッフを応援してくれている地元の事業所が複数参加してくれました。今回の仙台開催を無事終える事が出来たのは、みんなの力を合わせることで出来たことにあると思います。

しかし、まだ実行委員は少数精鋭で行っているのが現状で課題はまだ残っています。この課題をクリアしながら集いを継続していきたいと思っています。

（原田 幾世）

過去の開催状況一覧

第1回	日程：2012年11月30日（金）～12月1日（土） 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）…参加者数：63名
第2回	日程：2013年12月14日（土）～15日（日） 会場：聖学院大学（埼玉県）…参加者数：171名
第3回	日程：2014年12月14日（土）～15日（日） 会場：聖学院大学（埼玉県）…参加者数：221名

※参加者数はスタッフなどを抜いた数を集計しています。

全国ピアスタッフの集い、及び仙台開催の意義

「仙台でピアスタッフの集いをやった!!」という、「仙台にはピアスタッフがいっぱいいるのか!?!」「ピアスタッフの先進地なのか!?!」と思われる方もいるかもしれませんが、決してそんなことはありません。事業所に雇用されているピアスタッフはごく数名。それぞれ年に数回会うことはあっても、情報交換の場や深いつながりもあまりなく、それぞれが黙々と日々業務に当たっています。「仙台でピアスタッフの集いをやったとして、どれだけの方が関心を持ってきてくれるだろうか…。」準備を始めたときは時々そんな不安がよぎることもありました。

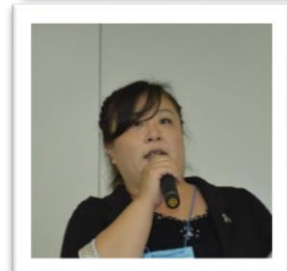
そう不安なときに助けられたのは、意外にも仙台の地元紙 河北新報に掲載された記事を読んで、集いの問い合わせを下さった何件かのメールでした。「ピアスタッフに関心がある」「是非行ってみたい」という事だけではなく、自分自身の物語を書き込んでいる方もいて、それを読むと大変胸が熱くなる思いでした。そのメールを読んでいると、たとえ病のさなかにあっても、障害があっても、私たち人間は誰かの、社会のためになることを願っているんだなあ、という事をつくづく感じさせられました。また、こうしてメールで思いを綴ってくださる方のパワーを感じていました。私も閉鎖病棟にいた20代、人の世話になってばかりだったころ、「自分の力なんてこんなもんだ」とあきらめつつも、いつか誰かのために、社会のために何かしたい、といつも思っていました。1日目の全体プログラムのときに集まったたくさんの人、その中にはすでにピアスタッフとして働いている人も、これから働きたいと思っている人も、ピアスタッフと一緒に働いてみたいと思っている専門職者もいましたが、より困難な方のために、自らの持てるものを用いて、ともに歩んでいきたいという、志を同じくするまさに「ピア」による集いだったと思います。それは、都道府県や今の立場や役割、これまでの歩みを越えて、共有できたような気がします。

さて、ピアスタッフの集いを終えた仙台のピアスタッフらはというと、打ち上げもまだせずに普段の業務をまた淡々とやっています。しかし何度も、打ち合わせで遅くまで話し合いをした、あの準備期間が仙台のピアスタッフらの絆を深める大事な時間だったと今、つくづく感じています。

仙台は今ピアスタッフの夜明けの時代です。まだまだ整わないこともたくさんありますが、ピアスタッフの集いを通して、仙台のピアスタッフや専門職者、これからピアスタッフになりたい方らが全国のピアスタッフらとところをひとつにし、そしてまたそれぞれの持ち場へ戻ってそれぞれの仕事や活動をしていく…これからの歩みの原動力をたくさん与えられたように思います。

(川村 有紀)

第4回全国ピアスタッフの集いの報告



写真いろいろ。仙台へようこそ♪



第4回全国ピアスタッフの集いプログラム集

※報告書用にレイアウトを
少し修正しています

PEER

2015



第4回全国ピアスタッフの集い

2015年11月14日(土)～15日(日)

テーマ：私たちがピアスタッフに魅せらせる理由^{わけ}

主催：日本ピアスタッフ協会

協力：NPO 法人仙台市精神保健福祉団体連絡協議会（仙精連）

後援：（順不同）認定 NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ

特定非営利活動法人全国精神障害者地域生活支援協議会（あみ）

東北福祉大学, 仙台市

タイムテーブル

1 日目

会場：東北福祉大学仙台駅東口キャンパス
6階 61教室

- 13:30 受付開始
14:00 開会式 司会 眞嶋 栄・引地 はる奈
実行委員長挨拶 川村 有紀
日本ピアスタッフ協会について 原田 幾世
14:45 全体プログラム
「私たちがピアスタッフに魅せられる理由（わけ）」
話題提供者（順不同）
矢部 滋也氏（北海道ピアサポート協会）
稲垣 麻里子氏（北海道ピアサポート協会）
寺谷 隆子氏（社会福祉法人 JHC 板橋会 理事長）
竹内 政治（日本ピアスタッフ協会）
16:00 終了
16:30 交流会
17:30 終了

2 日目

会場：仙台市福祉プラザ
仙台市荒町市民センター

- 10:00 受付開始 ※受付は仙台市福祉プラザで行います
10:30 分科会 ※定員になり次第締め切りとなります。
1. 言わせてやらせてピアスタッフ～今とこれから～
2. これからピアスタッフを目指す人のための集い
3. これからピアスタッフが地域に根ざすためには
～私の街のピア文化～
4. 働き続けるために出来ること
12:30 終了
12:45 クロージング（福祉プラザ 第1研修室）
司会 鶴水 牧子・佐々木 理恵
13:15 終了

※終了後、日本ピアスタッフ協会 総会があります
時間：14時～
場所：福祉プラザ 第1研修室
参加対象：日本ピアスタッフ協会 正会員
※傍聴はどなたでもできますが議決権は正会員のみとなります。

矢部 滋也氏

一般社団法人北海道ピアサポート協会, 多機能型事業所 PEER+design

- ① 牛タン！
- ② 私は病前、ソーシャルワーカーをしていました。病気をしてから、人生に絶望を感じていました。体調や生活に不安を覚え、ネガティブにしか物事を捉えられずにいました。ある時、多くのピアスタッフやピアサポーターに出会い、一転して光が射しました。自分の経験活かして支援をする仕事。一步を踏み出すきっかけを PEER な関係性でサポートしていけることが一番の魅力です！

分科会 1

言わせてやらせてピアスタッフ
～今とこれから～

会場：福祉プラザ 第2研修室
前半は、さまざまところで働いているピアスタッフに現状の活動およびそのなかでの課題等についてお話いただき、日本の現状について共有したいと思います。後半では、「ピアスタッフのこれから～私たちが決める私たちの未来！～（案）」というテーマでグループワークを行います。
企画担当者：関口明彦、相川章子
ゲストスピーカー：今川亮介、佐々木理恵、滝沢賢広

話題提供者よりひと言

(名前(所属) ①仙台での楽しみ(見たいもの、食べたいものなど) ②ピアスタッフに魅せられる理由^{わけ})

稲垣 麻里子氏

一般社団法人北海道ピアサポート協会

- ① 全国のピアスタッフに会うこと
- ② 私がピアスタッフに魅せられる理由(わけ)は、私の今までの経験を活かせるからです。私は20年以上前に入院した時、同じ人間ではない扱いを受けました。その時に精神科医療に疑問を感じて、ソーシャルワーカーという仕事を選びました。ピアとして似たような経験が共有できることで、私が「生きていていいんだ」と自己肯定感を高めることと他者の役に立てることが相互作用となることは、この仕事の醍醐味だと思います。

寺谷 隆子氏

社会福祉法人 JHC 板橋会理事長

- ① 全国の皆さんと人生の旅路を共にするかけがえのないひと時、希望と幸せを共感・共有する仲間である自分を改めて実感したい。
- ② 誰もが居場所と出番を持って参加し潜在的能力を発揮できる環境整備が不可欠。ピアスタッフとの協働は「自分らしく創造的な生き方をする尊厳の享有を基本とした」希望、目的等を持ち尊敬される豊かな将来へのアクセス。共に交わり活動する過程で激励をうけて自信を、寛容に出会って忍耐を友情を知り親切を、安心を経験して信頼の絆を覚える事ができる。

竹内 政治

日本ピアスタッフ協会

- ① 国分町で馬鹿騒ぎ。ずんだ餅。新幹線に乗れること。
- ② 私はすでにピアスタッフではありません。理解しあえなかった職場にペしゃんこにされたくちです。ピアスタッフは確かに魅せられる職種だと思います。只、光だけに目を向けて成功例しか見ないのは駄目です。なぜ? どんとき? ピアスタッフが潰れてしまうのか。一年前の私の事例を参考にして述べていきたいと思います。絶望の先に見える希望を見据えて諸君の胸に響く言葉を紡ぎたいと思います。

分科会紹介

分科会 2

これからピアスタッフを目指す人のための集い

会場：福祉プラザ 第1研修室

前半は、すでにピアスタッフとして働いている方やピアスタッフを目指している方の話を聴き、ピアスタッフの魅力や現実を知ってもらいたいと考えています。後半では、「なぜピアスタッフに魅力を感じたか?」、「自分がどんなピアスタッフでありたいか?」というテーマでグループワークを行っていきます。

企画担当者：原田幾世、眞嶋栄、上野康隆、加藤伸輔

分科会 3

これからピアスタッフ地域で根ざす為には～私の街のピア文化～

会場：荒町市民センター

ピアサポートはピアスタッフの源流と言える。仙台はピアスタッフ創世記の時代を歩んでいるが、それ以前より当事者職員や当事者活動は仙台でも脈々と続いている。この街のピア文化を紹介し、それを受けて参加者の地域のピア文化は何かを発見し、当事者・専門職それぞれの思いを共有し協働関係について深めていく。

企画担当者：川村有紀、鶴水牧子、池田裕道、長岡千裕、堀内美咲
ゲストスピーカー：佐藤 定善

分科会 4

働き続けるためにできること

会場：福祉プラザ 第3研修室

働き続けるための困難さ大変さ、働いていることでの希望や喜びをグループワークでシェアしていきます。私達は4年前の全国ピアスタッフの集いで出会い、繋がりを持つことができました。ピアスタッフは今ブームかもしれないが実際現場でのポジションは様々です。働いていくために、我々が大事にしていくもの、忘れてはいけないものがあると思います。体験から学んだものをシェアできたらと考えています。

企画担当者：竹内政治、飯山和弘、古閑俊彦

実行委員長挨拶

本日は第4回全国ピアスタッフの集いにご来場くださりまことにありがとうございます。
今年の集いを仙台でやろう、という話になったのは今年の2月の末のことでした。それから、なんとなく色々なことが決まっていき、一方で「このまま進めていいのだろうか…」と言う思いから、今回の副題でもある「私たちがピアスタッフに魅せられる理由（わけ）」について実行委員でワークをしました。その中からでてきたことは、「仲間」や「お金」「責任を取り戻すこと」などのキーワードでした。このワークを通して、ピアスタッフとして大事にしていきたいこと、そしてピアスタッフを取り巻く問題も少しだけ明らかになったように思います。

さて、本日から2日間、会場の皆様と、「私たちがピアスタッフに魅せられる理由（わけ）」について、様々な角度から学び、体験し、そして分かち合います。ピアスタッフの光も影もぜひ味わっていただき、それでもピアスタッフに魅せられる理由（わけ）ということについて互いの語りがひらかれ、またそれに耳を傾ける時間になればと思います。どうぞ2日間が皆様にとってたくさんの実りがありますようにお祈り申し上げます。

第4回全国ピアスタッフの集い 実行委員長
川村 有紀

第4回全国ピアスタッフの集い実行委員

実行委員長	川村 有紀	宮城県	社会福祉法人あおぞら 障害者相談支援事業所てれんこ
副実行委員長	飯山 和弘	埼玉県	地域活動支援センターふれんだむ
副実行委員長	鶴水 牧子	宮城県	社会福祉法人あおぞら 障害者相談支援事業所てれんこ
実行委員	今川 亮介	岩手県	社会医療法人智徳会 未来の風せいわ病院
実行委員	上野 康隆	岩手県	就労移行支援センターセラピー・ジョブトレーニー
実行委員	原田 幾世	宮城県	宮城障害者職業センター
実行委員	引地 はる奈	福島県	障がい者相談・地域活動支援センター「ひびき」
実行委員	古関 俊彦	埼玉県	NPO 法人颯埜扉(しのひ) 地域活動支援センター
実行委員	相川 章子	埼玉県	聖学院大学
実行委員	竹内 政治	埼玉県	さいたま市精神障がい者当事者会ウィーズ
実行委員	中林 澄明	東京都	社会福祉法人はらからの家福祉会
実行委員	関口 明彦	東京都	地域活動支援センター ライフサポート MEW
実行委員	濱田 由紀	東京都	東京女子医科大学
実行委員	宇田川 健	千葉県	認定 NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ
実行委員	眞嶋 栄	千葉県	もくせい舎 ゆい
実行委員	佐々木 理恵	神奈川県	（社）WING-NETWORK 多機能型事業所すぺいろ
実行委員	加藤 伸輔	神奈川県	ピアサポートグループ在
実行委員	磯田 重行	福岡県	社会福祉法人つばめ福祉会 ピアつばめ
現地事務局	池田 裕道	宮城県	NPO法人仙台市精神保健福祉団体連絡協議会 仙精連
現地事務局	堀内 美咲	宮城県	NPO法人仙台市精神保健福祉団体連絡協議会 仙精連
現地事務局	長岡 千裕	宮城県	社会福祉法人あおぞら 障害者相談支援事業所てれんこ
協力	園 環樹	滋賀県	株式会社シロシベ

PEER

協会

事務局

日本ピアスタッフ協会内
第4回全国ピアスタッフの集い実行委員会事務局 竹内方

FAX : 048-699-6194

E-MAIL : peer.tsudoi2015@gmail.com

Web : <http://peersociety.jimdo.com/>

全体会報告

テーマ：「私たちがピアスタッフに魅せられる理由（わけ）」

話題提供者（発表者順）：矢部 滋也氏・稲垣 麻里子氏（北海道ピアサポート協会）
寺谷 隆子氏（社会福祉法人 JHC 板橋会 理事長）
竹内 政治（日本ピアスタッフ協会）
司会：眞嶋 栄、引地 はる奈

【参加者数】約 100 名

- 【タイムスケジュール】
1. 話題提供者による発表
 2. 質疑応答
 3. 話題提供者より一言ずついただく



【全体会の概要】

今回の集いのテーマ「私たちがピアスタッフに魅せられる理由（わけ）」などについて、話題提供者それぞれの視点から話をしていただいた。話を聴き、一人ひとりが学びを得たり、参加者同士が思いを分かち合ったりする機会とした。後半、質疑応答の時間も設け、最後には話題提供者から感想など一言ずついただいた。

【感想・気付いたことなど】

- ・ 話題提供者のみなさんが、それぞれ立場や地域など異なっていて変化に富んだ発表だったのでとても充実した全体会だったと思う。特に、竹内さんの発表は魂の叫びを感じるものであった。「私たちがピアスタッフに魅せられる理由（わけ）」は何なのか？そもそもピアスタッフとは何なのか？ピアスタッフの光と影から見えることとは？等、話題提供者のみなさんの発表を聴き参加者一人ひとりが自身の考えを見つめ、考えを深めるきっかけになったと思う。
- ・ 質疑応答では、限られた時間の中たくさん質問が出た。
「合理的配慮について」「ピアスタッフに魅せられる理由を分かち合いたい！共有したい！」
「人としてのリカバリーとは？」「ピアスタッフと資格について」等々。質問をいただいたことにより活発なやりとりが行われ話がより深まったと思う。
- ・ 最後に話題提供者のみなさんから一言ずつ感想などをいただきちょうど予定の時刻となった。みなさんのご協力のおかげで無事に進行できたことに感謝。

【その他】

- ・ 以前案があった「話題提供者からの発表の後、参加者が近くの人と数人で話をする」というやり方をしていたら、どんな感じだったかな？というのが少し気になった。
今後、試みるのも1つでは。

報告書担当：引地 はる奈

分科会報告

分科会 1 言わせてやらせてピアスタッフ ～今とこれから～

企画担当者兼スピーカー：関口 明彦（地域活動支援センター ライフサポート MEW）

企画担当者兼コーディネーター：相川 章子（聖学院大学）

ゲストスピーカー：今川 亮介（東北のとある病院）

佐々木 理恵（一般社団法人 WING-NETWORK 多機能型事業所すぺいる）

滝沢 賢広（就労継続支援 B 型事業所 シャロームの家）

【参加者数】 35 名

【タイムスケジュール】

1. 分科会の趣旨説明
2. 各グループで自己紹介
3. パネルディスカッション
（話題提供者 4 名より一人 10 分ずつ）
4. パネラーとフロアとの
ディスカッション・質疑応答
5. グループワーク「ピアスタッフのこれから～私たちが決める、私たちの未来！」
6. グループ発表（全体で共有）



【分科会概要】

分科会の趣旨について、ピアスタッフはまだまだチームメンバーのなかに位置付いていない現状があり、言いたいことややりたいことはあるもののなかなか言えない現状があるのではないかと、ということから本分科会では思う存分に語り合っ、ピアスタッフの可能性を確認し、像を皆さんと共有したいと説明した。グループごとの自己紹介の後、4名のさまざまな職場で働くピアスタッフから現在の仕事についてご紹介いただいた。それを受けてフロアとパネラーの質疑応答を行った。その後それぞれのグループに分かれ、これからのピアスタッフの未来について検討した。

【感想・気付いたことなど】

参加者の感想を紹介する。「障害という垣根を越えて、一人の人間同士の出会いとして支援者と利用者との関わりを捉えていけたらと感じた」「とても充実していました。たくさんの『仲間』に出会えてうれしかったです。これからも『笑顔』を忘れず『ありがとう』を伝えていきます」「ピアスタッフの置かれている環境によって、活動、考え方が違うなと感じた」「2年ほど前から”ピアスタッフ”という言葉で迷走してきたが今回の分科会に参加して前進というか未来の展望が見えてきた」「ソーシャルアクションとして、社会のあり方を誰にでも安心して生活できる（働ける）社会へ変えていくきっかけになる存在がピアスタッフだと思います」まだまだ多様なピアスタッフの有り様のなかで、各々に気づきがあった。一方、今後について深めることができなかつたとの意見も出た。

報告書担当：相川 章子

分科会 2 これからピアスタッフを目指す人のための集い

企画担当者：原田 幾世（宮城障害者職業センター）
真嶋 栄（もくせい舎 ゆい）
上野 康隆（就労移行支援センターセラピー・ジョブトレーナー）
加藤 伸輔（ピアサポートグループ在）

【参加者数】25名

【タイムスケジュール】

前半：シンポジウム形式、後半：グループワーク

テーマ1：なぜピアスタッフに魅力を感じたか？

テーマ2：自分がどんなピアスタッフでありたいか？

【分科会の概要】

本分科会は2部構成。前半は、すでにピアスタッフとして働いている方、ピアスタッフを目指している方の話を聴き、ピアスタッフの魅力や現実を知ってもらった。後半では「なぜピアスタッフに魅力を感じたか？」「自分がどんなピアスタッフでありたいか？」というテーマでグループワークを行った。



【感想・気付いたことなど】

前半のシンポジウムではピアスタッフに対する理解が深まった。後半のグループワークでは率直に感じていることや疑問などが話し合われ、ピアスタッフのイメージがより具体的になったようである。「ピアスタッフになるには体調管理が大切だということが分かった」、「地元を持ち帰ってこのような場をつくっていききたい」という感想があった。「ピアスタッフにはピアをリカバリーに導く力があるということがわかった」というような感想もみられ、ピアスタッフの魅力を感じてもらえたようである。今後も続けていくべき価値ある分科会である。

ピアスタッフとして働くことのよい面ばかりではなく、苦労や難しさなども伝えていきたい。そういう部分も含めて、参加者にピアスタッフの魅力を感じてもらえるような場にしていきたい。

●分科会参加者構成

ピアスタッフを目指している方 38.9%
既にピアスタッフの方 16.7%
専門職の方 22.2%
障がい者雇用をされている方 5.6%

●分科会の評価

とても良かった 72.2%、良かった 22.2%、普通 5.6%、
あまり良くなかった 0%、良くなかった 0%

●ピアスタッフについて理解が深まったか

とても深まった 55.6% 深まった 44.4%
あまり深まらなかった 0% 深まらなかった 0%

●ピアスタッフになりたい（あるいはなあってほしい）と思ったか？

なりたい 61.1%、なりたくない 0%
検討する 22.2%

報告書担当：加藤 伸輔

分科会 3 これからピアスタッフが地域で根ざす為には

～私の街のピア文化～【ご当地企画!!】

企画担当者：川村 有紀、鶴水 牧子、長岡 千裕

(社会福祉法人あおぞら 障害者相談支援事業所てれんこ)

池田 裕道、堀内 美咲 (NPO法人仙台市精神保健福祉団体連絡協議会 仙精連)

ゲストスピーカー：佐藤 定善氏

【参加者数】15名

【タイムスケジュール】

10:30 仙台のピア文化紹介

11:10 ワーク 1：自分の地域のピア文化について

11:30 ワーク 2：会場をまわって他の人（地域）
のを見てみる。

11:50 話題提供（佐藤 定善氏）

12:20 感想など、共有

12:25 終了



【分科会の概要】

前半は仙台のピア文化の紹介を行った。

仙台市の行政計画ではピアカウンセリングを中心とした交流事業に力を入れており、当事者同士の支え合い、交流を目的としたセルフヘルプグループ（SHG）と、当事者の権利擁護や当事者としての意見を発信していくこと、SHGの連携を目的とした自助グループができ、ピアスタッフの雇用については平成13年ごろより市内の精神障害者地域生活支援センター（現：障害者相談支援事業所）に「当事者職員」の雇用が始まる。

前半の話を踏まえて、自分の地域にはどんな当事者活動、ピアサポート活動があるか、そのような中で自分がどういう行動をしているか、などについてシートに意見を出し合う。

その後、ワールドカフェ方式で会場の意見を見てまわった。その後仙台で長くピアスタッフをされている、佐藤定善氏より話題提供をいただき当事者職員として雇用されたときの話と、その後の苦労、それでも現在までピアスタッフとして働き続けるわけなどについてお話をいただいた。

【感想・気付いたことなど】

前半のワークを通して自分の地域にもピアサポートの文化があり自分の地域のストレングスについて見直すことができた。またそのために自らが取り組んでいることにも目を向けることができた。

佐藤定善氏の話提供では、当時の施設長から当事者職員として働くことを声をかけられたときの期待と不安、現在の抱えている困難について聞くことが出来、ピアスタッフの光の当たる部分だけではなく、影となっている、多くの問題も身近にあることに気づかされた。

報告書担当：川村 有紀

分科会 4 働き続けるためにできること

企画担当者：竹内 政治（さいたま市精神障がい者当事者会ウィーズ）
飯山 和弘（地域活動支援センターふれんだむ）
古関 俊彦（NPO 法人颯埜扉（しのひ）地域活動支援センター）

【参加者数】21名

【タイムスケジュール】話題提供：飯山和弘、指定発言：竹内政治、司会：古関俊彦

全体でグループワーク

自己紹介

テーマ1：仕事を続けていくために壁を

どのように乗り越えていくのか

テーマ2：ピアスタッフの仕事をしていて

嬉しかったこと

全員から一言ずつ



【分科会の概要】

テーマ1は、参加者からテーマをあげてもらい全員からレスポンスをしてもらった。

テーマ2は、司会の古関から参加者に呼びかけました。全員から一言の中で10年ピアの仕事をしてきたが、今とても辛いと訴えた方がいらっしゃいました。全員でそのテーマを情報共有しグループワークをしました。ピアの繋がりがとても大事で、飲み会などで愚痴をこぼしたりしているなどのレスポンスをしました。職場の人より気兼ねなく話せるなどの意見もありました。

【感想・気付いたことなど】

分科会の人数が少なかった為に、竹内さん飯山さんと打ち合わせで急遽全員でグループワークにしました。全員でグループワークを行って結果的には、とても良かったと思う。

障がい者枠で働いている方、ピアスタッフで働いている方、専門職の方がいてとても有意義な分科会になりました。挙げられたアンケートは、「よかった」という感想がほとんどで、あたたかい分科会でしたとの感想も多数ありました。

振り返り時に、全員でグループワークを実施したのはいいが、20人は多すぎるとの意見がありました。全員の発言や、意見を聞くことは大変いいと思われるが、20人でグループワークは、反省し次年度の課題としたいと思います。分科会のテーマとしては、集いでやり続けなければいけないテーマであると思います。専門職の方々や障害者就労で働かれている方々に、次年度もきちんと届く分科会にしたいと思います。

報告書担当：古関 俊彦

参加者の声 アンケート集計

アンケート調査についてはスタッフやオブザーバーを除いた参加者 101 名のうち、42 名（回答率 41%）から回答が得られた。

【問 1】ピアスタッフの活動に関する基本的な質問

1-1. あなたは、ピアスタッフとして活動したことがありますか？

- (1) ピアスタッフとして活動の経験がある・・・ 12 名
- (2) ピアスタッフとしての活動の経験がない・・・ 25 名
- (3) 無回答・・・ 5 名

(1) の選択者→問 2 に進む (2) の選択者→問 1-2 に進む

1-2. 今回の「集い」にはどのような立場で参加されましたか？

- (1) ピアスタッフに関心がある当事者・・・19 名
- (2) 家族・・・ 1 名
- (3) 医療福祉専門職・・・ 11 名
- (4) 行政職・・・ 2 名
- (5) 研究職・・・ 0 名
- (6) その他・・・ 2 名
- (7) 無回答・・・ 7 名

※その他の回答

- ・ 1 人の人として
- ・ 事業所の勉強として

【問 2】ピアスタッフ活動の意義について

2-1. ピアスタッフの活動にはどのような効果や意義があると思いますか？

当てはまる項目の数字に○をつけ、「その他」の欄に自由に記入してください（複数回答可）

- (1) 体験を共有していることで支援者と被支援者の距離が縮まる・・・ 28 名
- (2) 利用者がピアスタッフに親近感を持ち、関係やつながりが深まる・・・ 18 名
- (3) 「自分だけじゃない」という利用者の安心感や安堵感につながる・・・ 21 名
- (4) 利用できる資源のバリエーションが増える・・・ 13 名
- (5) ピアスタッフの自信につながる・・・ 21 名
- (6) ピアサポートの実践を通して人の役に立ち感謝されるという喜びがある 19 名
- (7) 援助することが援助される体験となり、元気になり、成長できる・・・ 24 名
- (8) ピアスタッフは、スタッフと利用者の橋渡しができる・・・ 14 名
- (9) その他・・・ 5 名

※その他の回答

- ・ 同じような視点でともにリカバリーできる
- ・ 障害当事者の地位、権利の向上、拡大
- ・ 地域福祉と医療の橋渡しになることができる
- ・ 回復のモデルになれる
- ・ ピアスタッフになることでリカバリーし、みんながリカバリーだ
- ・ すべてです
- ・ 人間として出会うセンスを持った人々の活動として意義があり、社会を変える効果がある

【問 3】 ピアスタッフに関する課題について

3-1.ピアスタッフの活動に関してどのような不安や困難、課題があると思いますか？

あてはまる項目の数字に○をつけ、「その他」の欄に自由に記入してください（複数回答可）

- (1) ピアスタッフが調子を崩さないか不安 23 名
- (2) ピアスタッフの活動を支える財源がない 20 名
- (3) 給与・報酬や保険制度の整備が不十分 23 名
- (4) ピアスタッフがスタッフと利用者の板挟みになる 19 名
- (5) ピアとしての役割と支援者としての役割、二重の役割を持つことが難しい . 12 名
- (6) 利用者との心理的な距離の取り方が難しい 15 名
- (7) ピアスタッフと名乗ることで利用者との対等な関係が損なわれる 10 名
- (8) 研修やスーパーバイズのコ機が不十分 15 名
- (9) その他 3 名

※その他の回答

- ・支援するということを意識しすぎ、相手を同じ人間というのを見失うこと
- ・場合によって活動がただの自己満足出終わってしまい、真に利他的な支援にならないことがある

【問 4】 ピアスタッフの将来について

4-1.ピアスタッフの活動の将来について、どのようなことが必要だとおもいますか？

あてはまる項目の数字に○をつけ、「その他」の欄に自由に記入してください（複数回答可）

- (1) ピアスタッフの活動をより多くの人に知ってもらう（普及啓発） 33 名
- (2) ピアスタッフの資格化や制度化 14 名
- (3) ピアスタッフのネットワークを作ること 27 名
- (4) その他 4 名

※その他の回答

- ・精神科病院やクリニックへの訪問メッセージ活動
- ・人とのつながり
- ・多くの人とのかかわり
- ・スーパーバイズ体制
- ・制度保障
- ・ピアスタッフが昔からの社会構造に巻き込まれ、十分な力を発揮できないことへのソーシャルアクションが必要だと考える
- ・自分自身の抱えている偏見、決めつけに対して自覚するというこ

【問 5】 基本的な事柄についての質問

5-1. あなたの性別について、当てはまる数字に○をつけてください

- (1) 男性 25 名
- (2) 女性 17 名

5-2. あなたの年齢について、当てはまる数字に○をつけてください

- (1) 20 歳未満 0 名
- (2) 20-29 歳 2 名
- (3) 30-39 歳 17 名
- (4) 40-49 歳 17 名
- (5) 50-59 歳 3 名
- (6) 60-69 歳 3 名

【問6】ピアスタッフの集いについて

6-1. 今回のプログラムはいかがでしたか?当てはまる数字に○をつけてください

<開会式>

- 4 (とてもよかった) 21 名
- 3 (よかった) 11 名
- 2 (あまりよくなかった) 3 名
- 1 (よくなかった) 0 名
- 無回答 7 名



<全体プログラム>

- 4 (とてもよかった) 16 名
- 3 (よかった) 16 名
- 2 (あまりよくなかった) 3 名
- 1 (よくなかった) 0 名
- 無回答 7 名

<分科会>

- 4 (とてもよかった) 20 名
- 3 (よかった) 11 名
- 2 (あまりよくなかった) 2 名
- 1 (よくなかった) 0 名
- 無回答 9 名

<懇親会>

- 4 (とてもよかった) 9 名
- 3 (よかった) 18 名
- 2 (あまりよくなかった) 4 名
- 1 (よくなかった) 1 名
- 無回答 10 名

<クロージング>

- 4 (とてもよかった) 11 名
- 3 (よかった) 15 名
- 2 (あまりよくなかった) 0 名
- 1 (よくなかった) 0 名
- 無回答 14 名

6-2. このような集いに今後も参加したいと思いますか?

- (1) ぜひ参加したい 29 名
- (2) まあ参加したい 11 名
- (3) あまり参加したくない 1 名
- (4) 参加したくない 0 名

6-3. 今後どうすればより良い集いになるとお考えか、ご自由にご意見をお書きください

- ◇ 良い集いというよりは、今はピアスタッフという職業の周知活動としての集いがしばらくメインになると思うので、私の地元の茨城にも交通費の負担のない会があるだけで素晴らしいことだと思います。
- ◇ 全体的にテンポがよく、2日で半日ではなく1日で行うのが良いのでは。
- ◇ 交流会の時間はもう少し長くてもよいのかなあと思いました。オープンダイアログ的の双方向、参加型、対話集会、参加者のマナー (おしゃべりしないとか)
- ◇ 今後も発展に合わせて、旬な課題を取り上げて下されば幸いです。

(つづく)

6-3. 今後どうすればより良い集いになるとお考えか、ご自由にご意見をお書きください

(つづき)

- ◇ もっと人数を集める。
- ◇ みなさんの意見が聞けて良かったです
- ◇ 今年のリカバリーフォーラムと発表者が一緒だったので他の人の話を聞いてみたかったです。質疑応答もフォーラムと同じ人が長々と発言していたり、ピアスタッフの集いの独自性みたいなものを打ち出せるといいかなと思いましたが、具体的にどうしたらよいかわかりません
- ◇ もっと全体プログラムが深い内容だったらよかったです。表面的な内容に感じた。
- ◇ 今のままでいい。
- ◇ 分科会を必ず次回も行っていきたい。全体会ではあまり暗い話をしないでほしいです。
- ◇ 交流会で出身県同士集まってみたり、誕生月で分けてみたりやってみたらより交流できそう。
- ◇ 楽しかったです。
- ◇ ピアスタッフに限定的イメージをもっている方が加わりやすい仕掛け、「雇用者」への働きかけと分科会の設定。
- ◇ 「ピアスタッフの集い」キャラバン隊で全国まわる。
- ◇ もっともっとしゃべりたい、話を聞きたいという気持ちになりました。プレ企画などがあったとしても楽しいかも・・・と思いました。
- ◇ 簡潔にメッセージを当ててほかの時間に当てるといいかもしれません。交流会にお菓子などあったらよかったです。
- ◇ 精神保健福祉士にもっと参加してもらえるように声をかけていきたいです。今おかれている課題を知った上で参加できればよかったと反省・・・。大会準備ご苦労さまでした!
- ◇ わかりません。
- ◇ 小規模な集まりが地方レベルであって、全国の集いが年1度あるといいな、と思います。
- ◇ 交通の便が良いこと。
- ◇ 分科会でのグループ討議の際にもっと話を聞きたいとおもうことがあったので、グループでの討論時間を長めにとっていただけるとよりよい集いになるかとおもいます。
- ◇ 開会式でアンケートをとるとするのは時間の工夫が必要かと思いました。せっかく実行委員長の素晴らしい挨拶があったのに少し興ざめたし、全体の時間が短いのに勿体ないなと感じました。
- ◇ 分科会はとても面白かったです。全体会のテーマはやや抽象的で言語化が難しいと思いました。
- ◇ もう少し周知を徹底すれば、もっと大勢の方が参加できると思う。
- ◇ ありのままの人生の形。
- ◇ 一緒にこれからも考えていきます。

6-4. その他、感想や思いなどご自由にご意見をお書きください

- ◇ 長くきれずに続けてほしい!
- ◇ 全国ピアスタッフ2日目に絶望感よりそのグループの話。わたげの子。
- ◇ 今までピアスタッフの方との交流がなかったので、自分と同様にほかの方も同じような喜びや悩みを抱えながらも前を向いて生きている姿に勇気づけられました。次回もぜひ参加してみたいです。
- ◇ 費用のわりに時間もプログラムも短いし、少ないです。せっかくなのでもっと多くの人の苦悩や魅せられる部分、工夫などを聞きたかったです。全国組織のため集まること等大変かと思いますが、とても期待しています。当事者がパワーを持つことはとても大切だし、支援職の在り方を変えることもできると思います。運営委員の方、大変お疲れさまでした。
- ◇ サポートされる側からサポートする側へ、誰かの役に立ちたい。
- ◇ 良い、リフレッシュになった。
- ◇ 来てよかったです。安心、ホットした、そんな感じです。改めて権利擁護を考えたいと思いました。
- ◇ とてもよかったと思います。
- ◇ 出会った施設長さんのご苦勞が大変印象的でした。ピアスタッフも雇用し、活かしつつ、相互作用を出す、()る施設を作ってほしいです。誰もが完璧じゃない。良い点を加えてステップアップしていきましょう!あるラグビー部のコーチがそれを「加点主義」とおっしゃっていました。忘れられない言葉です。
- ◇ お疲れさまでした。ありがとうございました。
- ◇ 大変良い刺激になりました。ピアスタッフの集いがピアスタッフにかかわるすべての方に かかわってほしいな、と参加してほしいな、という気持ちになりました!とても良い会でした。実行委員の皆様、お疲れさまでした。
- ◇ 笑いあり、涙あり、熱い交流・・・。ありがとうございました!
- ◇ いろいろ話がでて、フリーな肩凝らずの集まりができていて素晴らしいです。
- ◇ いろいろな意見が聞けて良かったです。
- ◇ 結構難しい話合いでした。
- ◇ また、仙台であるといいです。どうもありがとうございました。
- ◇ 最幸でした!・ありがとう。
- ◇ 1日目の交流会に参加できなかったことが1つ残念だったがいろいろな人と話して内容の濃い2日間だった。自分はまだまだひよっこだがこれから自分にしかできない支援ができるピアスタッフになりたい。
- ◇ リカバリーフォーラムにも今年初めて参加したのですが、集いと同じメンバーの参加が多いような気がして、この世界も以外と狭いのかなーと思いました。分科会でじっくり話せて良かったです。ピアスタッフがボランティア化しているところもあって、決してそうじゃないということも発信していただけるといいな、と思いました。
- ◇ 自分と違った思いの人の話を深くしたい。どちらも重要だと感じられた。

(つづく)

6-4. その他、感想や思いなどご自由にご意見をお書きください

(つづき)

- ◇ 視点が様々であることがそれであたりまえであると再確認できました。このまま、多様性を内包した集いであってほしいです。
- ◇ はじめアンケートの記入時間があつたのはよくなかつた。意欲をそぐ。もっと時間をたくさんとって内容を充実させてほしい。初日2時間、2日目2時間では短すぎる。もったいない。寺谷さん、竹内さんの話は迫力があつて面白かつた。もっと時間を割いて聞きたかつた。本業の合間での集いの準備、どうもありがとうございました。次回も楽しみにしています。
- ◇ 分科会で自分の発言に対する反応がけっこうよかつたので、少し自信になりました。全体としてとても有意義な2日間でした。どうもありがとうございました。
- ◇ 全体的に短く感じられた。これからも続けてほしい。
- ◇ やはり勉強とか学問ではなく経験をもつていろいろな人たちの話を聞けるのはうれしかつたです。
- ◇ ピアという題材を通して、つながることができること自体が素晴らしいと思います。様々な考え方をお聞きで来て非常に面白かつたです。ありがとうございます。

沢山のご意見ありがとうございました！今後につなげていきたいと思ひます。

ピアスタッフの活動に関するアンケート アンケート本文

このアンケートは、日本のピアスタッフの実情を把握することや、そこで提供されるサービスの意義や課題を明らかにすること、今後の「ピアスタッフの集い」のあり方について皆様のご意見を伺うことを目的とするアンケートです。回答の内容は個人を特定できない形で処理されます。差し支えない範囲でお答えいただけると幸いです。

問1. ピアスタッフの活動に関する基本的な質問

1-1 あなたは、ピアスタッフとして活動したことがありますか？

- 1) ピアスタッフとしての活動の経験がある→「問2」に進んで下さい
- 2) ピアスタッフとしての活動の経験がない→「問1-2」に進んで下さい

1-2 今回の「集い」にはどのような立場で参加されましたか？

- 1) ピアスタッフに関心がある当事者
- 2) 家族
- 3) 医療福祉専門職
- 4) 行政職
- 5) 研究職
- 6) その他()

問2. ピアスタッフの活動の意義について

2-1 ピアスタッフの活動には、どのような効果や意義があると思いますか？

あてはまる項目の数字に○をつけ、「その他」の欄に自由に記入してください。(複数回答可)

- 1) 体験を共有していることで支援者と被支援者の距離が縮まる
- 2) 利用者がピアスタッフに親近感を持ち、関係やつながりを深まる
- 3) 「自分だけじゃない」という利用者の安心感や安堵感につながる
- 4) 利用できる資源のバリエーションが増える
- 5) ピアスタッフの自信につながる
- 6) ピアサポートの実践を通して人の役に立ち感謝されるという喜びがある
- 7) 援助することが援助される体験となり、元気になり、成長できる
- 8) ピアスタッフは、スタッフと利用者の橋渡しができる
- 9) その他()

問3. ピアスタッフに関する課題について

3-1 ピアスタッフの活動に関してどのような不安や困難、課題があると思いますか？

あてはまる項目の数字に○をつけ、「その他」の欄に自由に記入してください。(複数回答可)

- 1) ピアスタッフの調子を崩さないか不安
- 2) ピアスタッフの活動を支える財源がない
- 3) 給与・報酬や保険制度の整備が不十分
- 4) ピアスタッフのスタッフがスタッフと利用者の板挟みになる
- 5) ピアとしての役割と支援者としての役割、二重の役割を持つことが難しい
- 6) 利用者との心理的な距離の取り方が難しい
- 7) ピアスタッフと名乗ることによって利用者との対等な関係が損なわれる
- 8) 研修やスーパーバイズなどの機会が不十分
- 9) その他()

問4. ピアスタッフの将来について

4-1 ピアスタッフの活動の将来について、どのようなことが必要だと思いますか？

あてはまる項目の数字に○をつけ、「その他」の欄に自由に記入してください。(複数回答可)

- 1) ピアスタッフの活動をより多くの人に知ってもらう(普及啓発)
- 2) ピアスタッフの資格化や制度化
- 3) ピアスタッフのネットワークを作ること
- 4) その他()

問5. 基本的な事柄についての質問

5-1 あなたの性別について、当てはまる数字に○をつけてください。

- 1) 男性
- 2) 女性

アンケート本文

5-2 あなたの年齢について、当てはまる数字に○をつけてください。

1) 20 歳未満	2) 20-29 歳	3) 30-39 歳	
4) 40-49 歳	5) 50-59 歳	6) 60-69 歳	7) 70 歳以上

問6. 「ピアスタッフの集い」について

6-1 今回のプログラムの各内容はいかがでしたか？あてはまる数字に○をつけてください。

	とても		あまり	
	よかった	よかった	よくなかった	よくなかった
開会式	4	3	2	1
基調講演	4	3	2	1
シンポジウム	4	3	2	1
懇親会	4	3	2	1
分科会（参加した分科会に○をつけて下さい）				
1) 言わせて、やらせてピアスタッフとは？				
2) これからピアスタッフを目指す人のための集い	4	3	2	1
3) ご当地企画（仙台実行委員による）				
4) 働き続けるためにできること				
クロージング	4	3	2	1

6-2 このような集いに今後も参加したいと思いますか？

1) ぜひ参加したい	2) まあ参加したい	3)あまり参加したくない	4)参加したくない
------------	------------	--------------	-----------

6-3 今後、どうすればより良い集いになるとお考えか、ご自由にご意見をお書きください。

6-4 その他、感想や思いなどご自由にご意見をお書きください。

※尚、第4回全国ピアスタッフの集いにおいて以下の団体のアンケート調査も併せて行われました。アンケートにご協力頂きましたみなさま、ありがとうございました

- 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 社会復帰研究部 水野様より
・・・セルフ・スティグマに関するアンケート
- ピアスタッフネットワーク 飯野様、佐藤様より
・・・・・・ピアスタッフに関するアンケート

第4回全国ピアスタッフの集いのまとめ

実行委員による振り返り

分科会2「これからピアスタッフを目指す人のための集い」を担当させていただいた、上野康隆です。私自身、当事者でありながら現在は就労支援の現場でスタッフとして働かせていただいております。分科会では、参加者の方の活発な意見交換から私自身も学ぶことが多かったです。色々な人がいていいと思えるような人間でありたい！人には歴史があり、人には役割があり、人には強みがある！自分の人生という舟のオールを握るのは自分自身！
(上野 康隆)

今回は、事前の会場の手配と、分科会【これからピアスタッフを目指すための集い】を担当しました。今回は初めての地方開催でどのような形になるか予想できないところもありました。開催前に地元の新聞社にインタビュー付きの集いの広報を大きく扱っていただいたのですが、それを見て、初めてピアスタッフの存在を知り、是非集いに参加してみたいとその新聞記事を丁寧に切り取り来場してくださった方がいたのがとても印象的でした。
(原田 幾世)

集いを通して、今回のテーマ『ピアスタッフに魅せられる理由』について、自分なりに考え続けました。そして思うのは、私は、病の経験を活かして奮闘するピアスタッフ仲間の生き方に魅せられているということ。集いに参加された皆様から刺激や学びを頂き、「自分は、これからどう生きていくのか」自分に問う機会となったこと、心から感謝しています。全国の仲間との交流や学びの場である集いが続いていきますよう、これからも私のできることをしていきます★
(引地 はる奈)

第4回の集いを迎えることとなり、関東を離れて初めての仙台大会となりました。現地スタッフの方と一緒に会計業務を担当させていただきました。会場探しから、プログラムの検討、パンフレットの作成、たくさんの方の力が結集して素晴らしい大会になったと思います。
(濱田 由紀)

今回、副実行委員長を務めさせていただきました鶴水です。チラシ作成と当日は2日目、クロージングを担当しました。私は現在の職場で働き始めて日も浅く、「自分はピアスタッフなのか？この中にいていいのか」と戸惑いながら準備を進めてまいりました。しかし参加者の皆様と先輩のピアスタッフの方々が熱い想いで場を作っていくのを見て、ピアスタッフと、ともに働く支援者が集うことの意義を深く感じ、私もその一員なのだと気づかされました。今回の集いにかかわった全ての方々に感謝申し上げます。この集いを機に大好きな仙台が、もっと全ての人が住みやすい街になるよう、できることをやっていきます。
(鶴水 牧子)

私は最近の「ピアスタッフ」の語られ方に違和感を覚えていた。夢や希望という言葉で飾られ、日頃の葛藤や悩みは言っちゃダメなムード。でも、今大会の実行委員の間で、それ違うよね、という話が共有できた事に救われた。実行委員長の「ピアスタッフをピアサポートする」という言葉にじっくりきて、大会でも「ピアサポート」に関わる話が多く交わされていた印象。ピアスタッフの芯の「ピアサポート」を大事にしたいと改めて思った。

(今川 亮介)

今回、初めて実行委員に加えていただきました。分科会2「これからピアスタッフを目指す人のための集い」を担当いたしました。「ピアスタッフになるには体調管理が大切だということが分かった」、「地元を持ち帰ってこのような場をつくっていききたい」という感想もいただき、実り多い分科会でした。また、実行委員の皆さまの熱い思いを感じることができました。これからも、ますます魅力のある集いになればと思っております。

(加藤 伸輔)

副実行委員長という重責を頂きながら、実質何も出来なかったことをお詫び申し上げます。仙台での開催で現地スタッフの皆さま方のご尽力はもとより、私以外の実行委員の方々のおかげをもちまして「集い」が成功裏に終えることが出来たことに心より感謝申し上げます。私自身皆さまの邪魔にならないように、微力ながら「集い」に関わらせて頂けるのであれば幸いに存じます。

(飯山 和弘)

仙台開催にあたり現地事務局として参加させていただいたNPO法人仙台市精神保健福祉団体連絡協議会の堀内美咲と申します。その人の持つ背景や役割は様々ですが、ひとたび集いに集まると、想いや課題を出し合い一緒に語り合える場となるとところがとても魅力的で、今回は準備段階から一緒にやろうと声をかけていただけたことをとても嬉しく思っています。打ち合わせの中で、ピアの「傾聴」と専門職の「傾聴」は何かが違うのか？と考える瞬間がありました。そんな「大枠では同じ」だけど「もしかしたらちょっと違う」部分を語り合う中で、人に寄り添うとはどういうことなのかを深めていけるのではとも感じました。集いで全ての出会いに感謝し、また次の出会いを楽しみにしております。

(堀内 美咲)

全体的には、とても良い大会になったと思います。初めて、総合司会をさせて頂き、勉強になりました。総合司会の時に、はる奈さんにリードしてもらい、大変助かりました。反省点は、うまくコーディネートできなくて、シンポジストの方々から話を引き出す事ができなかった事です。

(眞嶋 栄)

仙台開催、とてもよかったと思う。地方開催のための準備など、現地事務局との連携が大変だったと思いますが、暖かさを感じる集いでした。次回の地方開催にあたっては、もう少し準備する時間が必要だと思いました。

(古関 俊彦)

今年度の集いを準備の段階から振り返ってみると初めての地方開催であり実行委員の力が試されたと思います。それでも過去3回で培ってきたみんなの知恵や呼応する力でなんとかやれたと感じています。また今回は前回留守番だった竹内さんの復帰や、開催地が出身地であり地元愛をパワーに変えた川村さんの挨拶から人が本来持っている生きる力や命の尊さに胸が熱くなり心が震えました。この力と想いのバトンを引き継ぎ行う来年度の集いの使命は、ピアスタッフの「周知」から「働きの本質の模索」へ変わっていくのかなと思います。また来年も再会と新たな出会いを楽しみにしています。

(佐々木 理恵)

現地事務局の障害者相談支援事業所てれんこの長岡です。集いの開催を通じて、仙台にいるピアスタッフに関心のある人たちと集まって、一緒におやつを食べながら互いの考えを持ち寄って、ひとつのことで作り上げたことは、私にとって、そして仙台という地域にとっても、とても意義のある時間だったと感じています。また、ピアスタッフ協会の皆様をはじめ多くの出会いを深められたこともとても嬉しかったです。またいつか皆さんと再会できる日を願って。

(長岡 千裕)

まとめ

2015年の集いは初の地方開催で、中中、実行委員が集まりにくい中、不安と期待に包まれた序盤戦でした。今まで聖学院大学でつづいてきた集いなので、正直私も不安でした。そんな中、協会のマンパワーが発揮されつつ必然的に成功に向けて当日は近づいてきました。

実行委員長の川村有紀さんの奮闘は実にみごとで、隠れたリーダーシップというか、みんなに安心感を与えたと思います。事務局長の私は副会長（当時）の引地はる奈さんにお尻を叩かれながら、依頼文を出したり総会の資料を送付したりと大忙しでした。

さて、迎えた当日は雨が降っていました。駅から会場が近くて助かりました。一日目はいたってシンプルな構成になっていました。関係者挨拶があり、シンポジウムをやって懇親会をやりました。実行委員長挨拶のとき、感極まって涙を見せた川村有紀さんにティッシュを渡したのは私です。それも引地はる奈さんについてこいとお尻を叩かれておずおずとティッシュを差し出すと川村さんはそれで涙を拭きました。そのときです。私は今回の集いの成功を確信しました。参加者は100人前後で聖学院大学でやったときには及ばないまでも中身はそれ以上だった気がします。

迎えたシンポジウム。北海道組、私、寺谷先生の順で発表をしました。すみません。私はてんぱっていたので北海道組と寺谷先生の発表まで覚えていません。因みに私はピアスタッフという職業のいい面だけではなく負の面も含めて言いつのりしました。去年の集いに参加できなかったリベンジだったんです。印象に残るのはピアスタッフに合理的配慮が要るか要らないかで質疑応答で意見交換できたことです。その後、懇親会。二日目の分科会とつづき、なんともいえない不思議な集いでした。仙台の事務局や全国から駆け付けたピアスタッフとその関係者。

そうだな、総括を言うと、いい場を共有することが明日の活力になるということかな。

ありがとうございました。

(竹内 政治)

開催にあたってのご寄附へのお礼とご報告

皆様からのご寄附により、第4回全国ピアスタッフの集いを無事に行うことができました。貴重なご寄附をお寄せくださいました皆様方、また賛助会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

尚、ご寄附頂きました費用の総額は109,000円となりました。

次年度以降においても、引き続き全国ピアスタッフの集いの実施を予定しております。今後ともピアスタッフの活躍、発展のためにご協力賜りますようお願い申し上げます。

第4回全国ピアスタッフの集い 実行委員長謝辞

今回の集いでは運営費がほとんどない中での開催は本当に不安でしたが、たくさんの方からご寄附をいただき、当日来られなかった方も含めて、たくさんの方の思いが詰まった集いになりました。また、会場をお借りするにあたって、たくさんのご尽力をいただいた東北福祉大学の西尾雅明先生と研究室の職員の皆様、細かなところまでご配慮くださった同大学の萱場裕様ありがとうございました。河北新報の安達孝太郎様には集いのために取材をしてくださり、素敵な記事を書いていただき、ありがとうございました。

当日は、雨にもかかわらず外で誘導などのお手伝いをくださった学生ボランティアのみなさん、送り出してくださった東北福祉大学の石黒先生、白百合女子大学の郡山先生、ありがとうございました。学生さんの細かなサポートにより当日はスムーズに運営を進めることができました。遠方より話題提供者としてお越しいただいた一般社団法人北海道ピアサポート協会の矢部滋也様、稲垣麻里子様、社会福祉法人JHC板橋の寺谷隆子様には貴重な実践のお話をいただき、ありがとうございました。私たちの笑顔も涙も素敵に写真におさめて下さった福祉新聞の福田敏克様、ありがとうございました。

また、当日および集いの準備等にあたりご理解いただき、いつも快く送り出してくださった私たち実行委員の職場の上司や同僚のたくさんのご協力とご配慮を本当にありがとうございました。ここで言い尽くせない感謝がまだまだたくさんあります。この感謝の気持ちを第5回、第6回へとつなげていきたいと思えます。本当にどうもありがとうございました。

(川村 有紀)

編集後記

第4回全国ピアスタッフの集いを終えて、早4ヵ月。それぞれが自分の持ち場に戻り、迷いや葛藤を抱えつつも時には素敵な体験をしているかと思えます。集いを終えた後、今度は報告書の作成や収支のまとめなどすることが盛り沢山。実行委員1人1人の働きや、ご協力下さった多く皆様の支えがあってこうした場が出来ている事を、報告書を作りながら一人先にじっくりと味わう時間を持たせて頂き感謝の気持ちが込み上げてきます。日々迷う事や考え込んでしまう事もあるけれど、また来年も皆さんにお会いしたい！という想いを日々の仕事の原動力のひとつにして、毎日の業務の頑張ろうと思えます。お越し下さった皆様、お心を寄せて下さった皆様、本当にありがとうございました。集いにお越し下さった方は再会を。まだ出会っていない方はこれから出会うことを楽しみにしています！また来年、お会いしましょう！

(佐々木 理恵)

日本ピアスタッフ協会からのお知らせ

～この時代咲いてみようじゃないの～

2014年9月14日に埼玉県障害者交流センターで設立総会を開き、日本ピアスタッフ協会が発足しました。全国の当事者で対人支援を仕事とする仲間たちの協会です。職場で孤立することなく、ピアスタッフ同士助け合い、学び合い、情報共有できる組織として発足されました。専門職として、精神障がいを経験したスキルを活かし当事者の人権を守り尊厳を尊重し社会参加を促進する使命をまっとうします。

ただいまこの活動に賛同して下さる会員、および応援して下さる賛助会員を募集しています。

是非一緒にピアスタッフの活動を盛り上げ、支え合い、学びあっていきませんか？

▶ 会員・賛助会員のお申込みは Web サイトから→<http://peersociety.jimdo.com/>

1：Web サイトのフォームより申込み

2：口座へのご入金

3：申込み完了！

日本ピアスタッフ協会



※定款や会員対象などは Web サイトにてご確認頂けます。

※会費 会員…年会費：3,000 円 / 賛助会員…年 1 口：2,000 円

【ご寄付のお願い】

尚、日本ピアスタッフ協会は現状任意団体として活動しております。今回、全国ピアスタッフの集いも第4回を無事に実施することができましたが資金面では困難な状況が続いています。日本ピアスタッフ協会では全国ピアスタッフの集いの実施にとどまず、今後はピアスタッフ向けの勉強会なども企画したいと思っており資金の面でご協力をお願いしたくご寄付を受付けております。どうぞ宜しくお願い致します。

▶ ご寄付の方法…ご寄附の際も上記 Web サイトのフォームより受付けています

※入金後、事務局から入金確認のご連絡を入れさせて頂くため
お手数ですがフォームよりお申込みの上、ご入金お願い致します。



日本ピアスタッフ協会 事務局

FAX : 048-699-6194

E-MAIL : peersociety@gmail.com

Web : <http://peersociety.jimdo.com/>



第4回全国ピアスタッフの集いに関する報告書

発行日 2016年3月
作成 日本ピアスタッフ協会
第4回全国ピアスタッフの集い実行委員会
連絡先 日本ピアスタッフ協会 事務局
FAX : 048-699-6194
E-MAIL : peersociety@gmail.com
Web : <http://peersociety.jimdo.com/>